

古刹大安寺と元銀行員の私

南都大安寺副住職 河野裕韶 氏

火曜午餐会5月第2例会を16日、当部5階大会議室にて開催した。

河野氏は昭和63年生まれ。大阪市出身。一人の女性との運命的な出会いから始まるご自身の経歴と古刹大安寺の歴史、今後への想い等を興味深くわかりやすく話していただいた。

【自己紹介】

私は大阪の一般家庭に育ち、大阪府立豊中高校から関西大学経済学部へ進み、バイトやサークル活動に明け暮れる学生生活を送った。大学で経済を学んだことから就職活動で銀行業界を志望、大阪在住の私が奈良の地方銀行に就職したことで運命の歯車が回りだした。南都銀行生駒支店に配属され、そこで一人の女性行員と出会った。彼女は由緒ある古刹大安寺住職の一人娘だった。彼女と交際し結婚を決意したが、この先どうしたらよいか考えた。私は一般家庭で育ち、お寺のことはわからない。25歳の時、銀行を退職した。僧侶として生きていく道を選んだ理由はいろいろあるが、決意したからにはすぐ行動に移さないといけない。高野山専修学院で共同生活し1年間の修行を終え、大安寺に入った。大安寺のことをみなさんに紹介したいと思う。

【大安寺とは】

南都七大寺（東大寺、興福寺、薬師寺、法隆寺、元興寺、西大寺、大安寺）のひとつであり、奈良時代に最も栄えた寺院だった。弘法大師空海の残した言葉に「大安寺を以て本寺とすべし」がある。大安寺は度重なる移転と寺名の変更を繰り返した。法隆寺の近く「熊凝精舎（くまごりしょうじゃ）」という聖徳太子のプライベートな場所だったようだ。太子が亡くなり、639年、田村皇子（舒明天皇）は太子の依頼で「百濟大寺」を建立。これは我が国最初の

天皇が建立した寺院である。その後、「高市大寺」と名を変え、藤原京の時代には「大官大寺」と名を変えた。大官とは天皇、大寺とは天皇の建てた寺という意味で、天皇の天皇の寺、この名称は唯一無二の寺であるということの意味する。710年都が平城京に移り、寺名は現在の「大安寺」に改められた。この時代、大安寺は国家筆頭寺院として大いに栄える。敷地は今の25倍、26万平方メートル、壮大な大伽藍で国家が建てた仏教の総合大学であった。空海、最澄、当時の優秀な僧侶が集まり、インドやベトナム等留学生も国際色豊かな大安寺で学んだ。特に空海は大安寺と深いかわりを持ち、大安寺で仏教を学んだ後、唐へ留学、真言密教を世に広めた。しかし、奈良時代が終わると大安寺は衰退の運命に。都が平安京に代わって奈良の序列が下がってしまった。その後度重なる天災で東塔、西塔の消失、秀吉の時代には大地震、壊れた寺は復興に莫大なエネルギーがかかるため衰退の一端をたどり、明治期には荒廃するも戦後、先々代住職、現住職の尽力により少しずつ復興が進み、今の大安寺がある。

【大安寺とわたし】

大安寺に入って8年。畑違いの世界から来たので、出る杭は打たれないよう3、4年は観察し構想を練っていた。その後は構想を実行するべくいろんなことにチャレンジしている。しかし私が心がけていることは、貫主の許可をとること。伝統、格式、品位は重んじ



るべきである。僧侶としてのスタートが遅い私のデメリットを生かし、現状を客観的に分析し、改善するべきことを考える。特に力を入れたのは「大安寺天平伽藍CG復元プロジェクト」である。大安寺の壮大な姿を最先端のCGで復元し、多くの人に見てもらう。また、神社、寺院が宗教の垣根を越えてコロナ禍で余った日本酒をアルコール消毒液に変える「神仏酒合プロジェクト」、また、「癌封じの寺 大安寺の365日」を執筆した。わたしは大安寺は「伸びしろだらけの寺」だと思っている。

【これまでの振り返りとわたし】

何事も熱意を持って、愚直に泥くさく0を1に持っていくことは大変。だからこそ手を差し伸べてくれる人のありがたさを感じている。私の武器は一般社会出身者という目線。しがらみの無さ。自分の個性を生かし、大安寺を再びかつての高みに押し上げたい。そのためには私一人には限界があるので、たくさんの方、奈良の方に御協力頂きたい。